

NEWS RELEASE

2026年10月20日
浜松市中央区砂山町320-2
株式会社遠鉄百貨店

各位

世界に一台しか存在しないミニチュアと、唯一無二の描画技法が織りなす
『スクラッチ・モデルとスクラッチ・ドローイング展』を開催

株式会社遠鉄百貨店(浜松市中央区砂山町、社長:後藤毅彦)は、インダストリアルデザイナー、スクラッチモデラーとしてモノづくりの原点を長年にわたって追及してきた高梨廣孝氏と、スクラッチ・ドローイングで独自の世界観で描く安藤俊彦氏の二人展を開催します。

本展では、市販の模型キットを一切使用せず、綿密な取材を重ねた上で、図面作成から部品加工、組み立てまでをすべて手作業で行う「スクラッチ・モデル」と、独自に生み出した技法である「スクラッチ・ドローイング」による作品を一堂に展示します。

展示作家は、ヤマハ株式会社元取締役であり、静岡文化芸術大学デザイン学部の元教授で、浜松とも深い縁を持つスクラッチ・モデル作家・高梨廣孝氏と、静岡県出身の自動車や街並みを題材に独自の世界観を描く画家・絵本作家の安藤俊彦氏。

工芸、デザイン、イラストレーションという異なる表現分野でありながら、「手仕事によって生み出す」という共通の精神から生まれる作品は、言葉を超えて人の目を釘付けにする知性と魅力にあふれています。

今回は、制作した作品群の中から、厳選した作品を展示・販売します。

記

【実施概要】

- タイトル : スクラッチ・モデルとスクラッチ・ドローイング展
※作品は展示販売いたします。
- 会 期 : 2026年10月22日(木)～27日(火)6日間
各日10時→18時 最終日は17時閉場
- 会 場 : 本館7階プレミアムステージ
- 入 場 : 無料
- 展示内容 : 高梨廣孝氏による歴史的モーターサイクル・自動車のミニチュア
安藤俊彦氏の自動車をモチーフにしたイラストレーション

本展は、静岡にゆかりのある作家による卓越したものづくりと芸術表現に触れることができる貴重な機会です。浜松が育んできたモノづくり文化やデザインの魅力を再発見できる機会として多くの方にご覧いただきたいと考えています。

■スクラッチ・モデル

スクラッチ・モデルとは、英語の「start from scratch（ゼロからの出発）」という言葉から名づけられたものであり、市販の模型キットは一切使用せず、博物館やコレクターへの取材を通じて収集した資料を基に、設計図の作成から部品加工、組み立てまですべてを自作する模型制作技法です。

高梨廣孝氏は彫鍛金技術や精密加工技術を駆使し、実車の構造や細部まで忠実に再現しています。小型精密旋盤やフライス盤を用いて、一点一点金属部品を制作し、まるで実車を縮小したかのような作品へと仕上げています。その精密さは、機械式腕時計を見るようです。



高梨廣孝氏

「BROUGH Superior SS100」

(85×250×高さ145mm、scale 1/9)

■スクラッチ・ドローイング

安藤俊彦氏によるスクラッチ・ドローイングは、伝説の文化自動車雑誌「NAVI」の巻頭挿絵の連載（10年）で自ら創り上げた技法です。アクリル絵の具を重ね合わせステンレス製のヘラで削り取り、下地とのバランスを絶妙にとっています。躍動感のある線を駆使して、独自の世界を構築するだけでなく、巧みなデフォルメを施した人物も魅力的です。



安藤俊彦氏

「メッサーシュミット」

(165×200mm)

以上

【この件に関するお問合せ先】

株式会社遠鉄百貨店 営業推進部 マーケティング戦略課

【別紙】作家略歴・代表作品

■作家略歴

高梨廣孝 Hirotaka Takanashi

- 1941年 千葉県に生まれる
- 1963年 東京藝術大学金属工芸科卒業
プロダクトデザイナーとして日本楽器に入社
- 1991年 第1回ミニチュアモデル展「ONE OFF」をAXISで開催
- 1992年 ヤマハデザイン研究所長
- 1992年 ヤマハ株式会社取締役
- 2000年 静岡文化芸術大学 デザイン学部教授
- 2007年 大学を定年退官
- 2011年 第4回ミニチュアモデル展「1/9の小宇宙」をアクシスで開催
- 2019年 「高梨廣孝・安藤俊彦二人展」を銀座和光で開催
- 現在 千葉市在住 道具学会理事 AAF 会員



安藤俊彦 Toshihiko Ando

- 1956年 静岡県に生まれる
- 1977年 桑沢デザイン研究所グラフィックデザイン科卒業
卒業後、画家松井ヨシアキに師事、本格的に
絵を志す
- 1985年 広告会社のイラストレーション部を経てフリーランス
となる。以後、広告・雑誌を中心にイラストレーター
自動車画家、絵本作家として活動を開始する
- 1991年 個展開催、以後各地で個展およびグループ展に出品
- 2002年 絵本「あかくん まちをはしる」出版
以後「あかくんシリーズ」など8冊出版
- 現在 宮崎市在住 AAF 会員



■代表作品

高梨廣孝

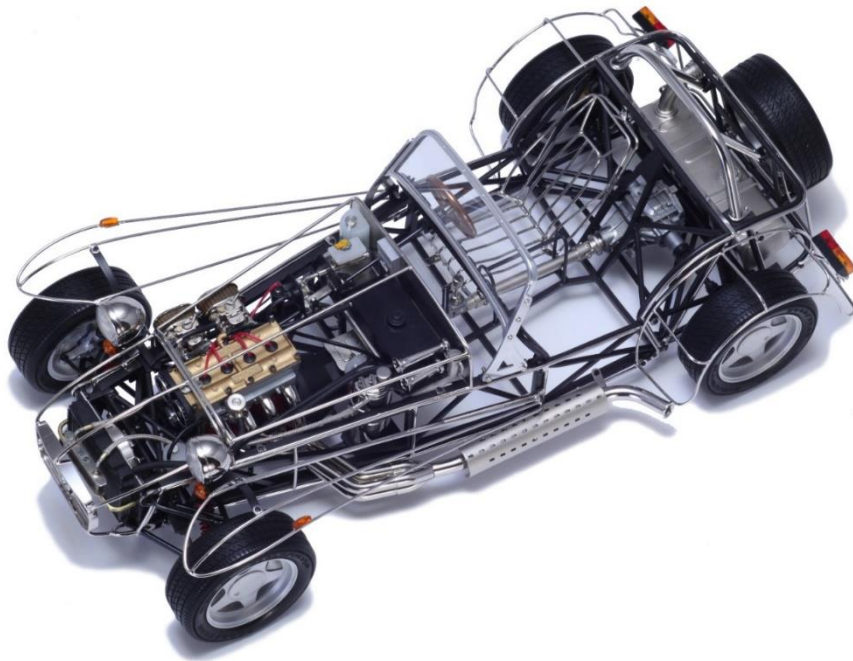
YAMAHA V-MAX 1985 scale 1/9



1980年代半ばの北米マーケットは、経済不況の影響を大きく受けモーターサイクルにとっては冬の時代であった。

マーケットは新しい価値観を持ったモーターサイクルの登場が待ち望まれていた。そんな時代に、リアタイヤをダイレクトに蹴り上げるようなフォルムを持ったバイクの開発がスタートした。そして、1985年、ついに「スーパースプリント・アメリカン」として市場にリリースされる。水冷V型4気筒1,198ccのエンジンは、市販バイクとしては世界最高145ps/9,000rpmを発生、12.4kg-m/7,500rpmのトルクで極太タイヤを簡単にスピンさせることが可能であった。V-MAXは、追従するライバルの存在しない孤高のスポーツバイクとしてヤマハを代表するロングセラーの名車となった。本モデルは、全長256mmの大きさでその雄姿を再現している。

Caterham Super Seven 1985 scale 1/12



1957年、コーリン・チャップマン率いるロータス社から、サーキットレースやヒルクライムを楽しむための小型車が発表された。しかも、自分で組み立てるキット販売であった。工場で組み立てる1/3の時間でキットは出来上がり、その30%の物品税が免除された。お陰でユーザーは、同ような性能のライバル社よりも3割も安く入手できた。一度セブンを手に入れたオーナーは、強烈な加速、卓越したハンドリング、腹にしみいるようなエグゾーストノートにすっかり魅了されてしまう。

1971年、セブンの販売店として熱心に活躍してくれたケーターハム・カーズ社にコーリン・チャップマンはセブンの製造権を譲渡してしまう。製造権を得たケーターハム社は、オリジナルデザインに手を加えながら進化させる。今回のモデルはボディ外板を取り去り、内部のメカニズムを忠実に再現して、立体のテクニカルイラストレーションに取り組んでみた。

安藤俊彦



HONDA RA271 320×270mm



HONDA S800
230×310mm